

ニュース

永瀬ダムの工事について

永瀬ダムは物部川総合開発事業の一環として昭和25年10月建設省直轄工事で着工、27年11月本体打設開始、30年12月完成予定で工事中である。本ダムは「越流式直線重力式コンクリート造」で高さ85m、堤頂長205m、最大敷巾73.1m、堤体はエプロンを含み355,000m³である。このダムによる貯水池は総量5,880m³、有効貯水量は4,530万m³で、ダム地点の洪水量3,300m³を1,000m³カットして灌漑用水に向け、13,000石の増収を計り、かつ永瀬、吉野、杉田の3発電所により最大40,200kW、年間2.16億kWHの電源開発を行いダムの総工費は37.7億円、昭.29.11現在までに25.3億円を使用しコンクリート打込量も67%に当る23.7万m³に達した。

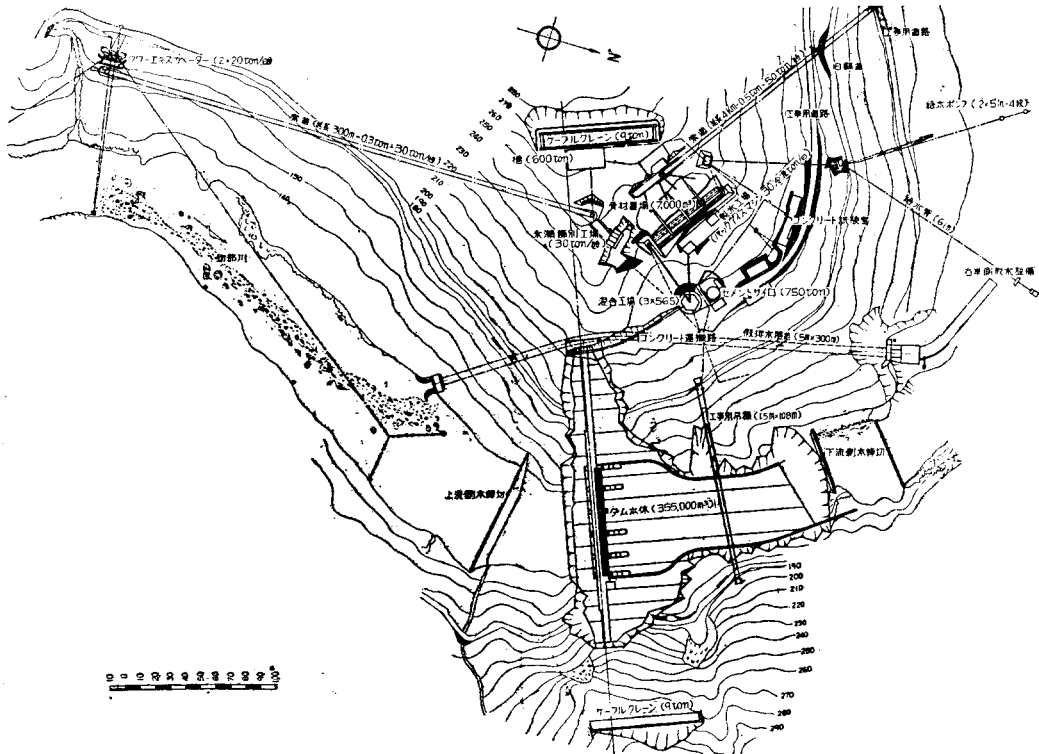
本ダムの特長としておもに次のごときものがあげられる。まづダム地点における洪水をカットするためのテンターゲート合計5門を設置し、また応力伝達キーとして下流面に平行な切込み深さ20cmの斜めキーを2mピッチに設け、クラックの発生を防止することに

写真—1 永瀬ダム（昭.29.12.1現在）



下流から見た永瀬ダム
昭和29年12月までの打上り高約45m（全高の53%）下流面に見える四角の穴は仮排水暗渠、左右の2条の線は高圧バルブ排水孔つとめた。さらに応力分布を円滑にするために上流面下部に1:0.30の緩傾斜部分を設けた。コンクリート打込みにはバックアイスを用いて盛夏でも打込温度を20℃に抑えることに成功した。基礎の処理についてはグラウトにより細心の注意を払って行っている。施工設備としては冷凍場のほか、低真空式及び低圧圧送によるセメント運搬、遠隔操作による骨材の選択引出し及び運搬、砂に対する圧気式脱水機等各種の新設備を用いている。コンクリートの品質管理に当ってはサンプルの抜取り検査により中庸熟セメント規格の少なくとも7日値に合格したもののみを搬入することとしている。

図—1 永瀬ダム付近平面図



(建設省中四地建提供)